

2018年6月10日  
テオリア第69号

定価 350円  
毎月10日発行  
定期購読料 年間 4000円  
半年 2000円

郵便振替口座 00180-5-567296研究所テオリア

# θεωρία テオリア

発行 研究所テオリア  
東京都千代田区内神田1-17-12  
勝文社第二ビル101  
TEL&FAX 03-6273-7233  
ホームページ  
http://theoria.info  
E-mail: email@theoria.info

## 権力者の論理超え非核平和アジアへ



5月3日・有明防災公園

### 権力者の論理超え 非核平和アジアへ

今年に入り、朝鮮半島をめぐる情勢が大きく変化している。文在寅政権の仲介で6月12日米朝首脳会談開催が合意され、4月27日南北首脳会談が行われた。

5月24日トランプ政権は首脳会談中止を一旦発表したが、翌日には撤回。主導権争いが続いている。

国際情勢が大きく動く中でも、辺野古新基地建設、イージスアショア配備、そして9条改憲と軍拡・戦争国家へ進む安倍政権。

金正恩にとっては体制延命、トランプにとっては中間選挙勝利という権力者の思惑が始まった米朝交渉。権力者の思惑を超え、民衆の力で朝鮮半島の戦争状態を終わらせ、非核・平和の北東アジアを創造できるか。(5月26日)

### 夏期カンパをお願いします

皆さん、夏期カンパをお願いします。  
2018年、朝鮮半島情勢が劇的な展開を見せ、トランプ政権による中東紛争拡大政策など、国際情勢が大きく動いている。一方、安倍政権は疑惑の噴出にもかかわらず、私物化政治を続け、高プロ労働者過労死促進法を強行。憲法9条改憲・戦争国家への道を進んでいる。

「1968年」から半世紀。世界的な反乱が起きた問いは、現在の変革の課題の中でどのようにとらえ返されるべきなのか。

共に探求していきましょう。  
2018年6月

#### ◆カンパ送り先

郵便振替 00180-5-567296 研究所テオリア  
城南信用金庫神田支店 普通口座 口座番号2800573 口座名 研究所テオリア (信金への振込の場合はFAX、メールなどで振込内容をご連絡ください)

#### シリーズ・1968〜69年反乱から50年

「1968」再考:「叛乱の時代」を問い直す

松井隆志(武蔵大学教員、社会学)  
6月16日(午後6時半/要申込)  
文京シビックセンター 3階会議室  
研究所テオリア

#### インフォメーション

止めるぞ!土砂投入6・9集会 軍事基地で辺野古の海をつぶすな  
6月9日(午後6時半/山城博治/文京区民センター)  
/辺野古の海を土砂で埋めるな!首都圏連絡会  
森友学園疑惑徹底追及!安倍内閣は総辞職を!6・10国会前行動  
6月10日(午後2時/国会正門前/総がかり行動  
貧困拡大社会にNO!生活保護引き下げ反対集会  
6月30日(午後1時半/立川市女性総合センター/生活保護費大幅削減反対!三多摩アクション)

#### 紙面紹介

リベラルとは何か(下) 白川真澄……………2〜4面  
マルクス生誕200年 渋谷要……………5、4面  
ソウル市民民主主義私見聞録 原千代……………6〜7面  
東峰火事カンパ……………7面  
高プロ/反「昭和の日」/5・15/憲法集会……………8面

座標塾第14期第1回

# リベラルとは何か

(下)

白川 眞澄

## 日本におけるリベラル ——リベラルの登場

ここからは、日本の現実

に即してリベラルについて見ていきたい。日本の政治においてリベラルが本格的に問題にされたのは、冷戦終焉後の90年代以降です。資本主義VS社会主義のイデオロギー的对立に特徴づけられた冷戦の終焉は、それを映し出していた「保守VS革新」の対立構図を失効させました。これは、主

として「革新」勢力(社会党と総評)の自壊によるものです。89年に総評が解体し、連合が生まれた。社会党が解体過程に入ると、94年に村山政権で政権の座に着くと同時に解体してしまつた(社民党という姿で細々と残りはしますが)。しかし、保守勢力(自民党)の側も、政治腐敗の噴出、38年におよぶ自民党一党支配の崩壊に見舞われ、行き詰まっていた。そこから新党ブームという形で政党再編が起こり、93年に非自民連立政権(細川護熙政

90年代以降の政治は、「保守VS革新」に代わって「保守VS改革」の対抗構図が表に出ることになりました。この場合の「保守」は、官僚主導の利益誘導政治、既得権にしがみついた「抵抗勢力」を指し、「改革」は、官僚政治の打破と規制緩和の推進という新自由主義的な改革の色彩の強いものであった。

「改革」のシナリオが書かれた綱領的文書が小沢一郎『日本改造計画』(93年)です。小沢は、冷戦終焉後のグローバル化に対応して「国際社会で通用する一人前の『普通の国家』に脱皮

するために、「改革」が必要だと主張した。「改革」の内実は二つです。一つは政治改革。官僚主導の政治の打破、政治的リーダーシップの強化(官

邸機能の強化など、中央集権から地方分権へ、政権交代可能な政治システムの構築(小選挙区制の導入)。もう一つは新自由主義的

改革。規制緩和、所得税減税、自己責任型の社会の確立。官僚主導政治の打破は、安倍政権による内閣人事局の設置によって官僚が官

の人事権を掌握するという形で成就しました。地方分権改革」が行われたが、

「保守リベラル」として存在してきまされた。これは、護憲と経済成長主義によって特徴づけられます。

保守リベラルは、60年安属する大平正芳、宮沢喜一、

加藤紘一らに代表されました。

中北浩爾は、「日本政治におけるリベラルを一言で定義するならば、日本国憲法を肯定的に捉える勢力である」(対立構造の変容と政治

思想)18年2月号)と規定しています。この定義によれば、『保守VS革新』の対

抗軸であった日米安保をめぐることに肯定的な「保守」のなかにも、リベラルは存在する。つまり、日米

安保を支持しながら護憲の立場をとる。それが「保守リベラル」であり、自民党

内のリベラル潮流のみならず、民主党も公明党も「保守リベラル」に属することになる。

先に、保守とリベラルは対立せず両者は親和的であるという議論を紹介しまし

たが、その場合、何を保守するのかが問題になりま

す。守るべきものが「戦後日本の価値」、すなわち憲法と経済成長であるとするれば、枝野の言う「リベラルは保守である」という考え方は、立派に成り立つ。彼

は十分に分析できないというが私の意見です。この三

原理に(4) 経済成長による統合、という原理を加える必要がある。この四つが戦後国家の構成原理だった、と言える。

この四つの原理を基準にすると、保守リベラルと保守右翼とは、(1) 対米従属(米国一辺倒)を共通項としつつ、前者は(3) 憲法

平和主義と(4) 経済成長主義を重視している。後者は(2) 帝国(戦前)継承を主張して(3) 憲法平和主義を否定するという立ち位置です。ただし、政権

に就いた保守右翼の安倍は、(4) 経済成長主義を強調し、(2)の本音を隠している。

安倍は、靖国参拜の自衛(13年12月に一回切り)や戦後70年談話に見られるように右翼としての本音を封印してきたが、宿願の改憲についても変化球を投げつけてきました。憲法平和主義を頭から否定する改憲案ではなく、これを尊重するかの

ような装いの改憲案——九条の第1・2項に自衛隊明記の第3項を加える——を出してきた。戦後の憲法価値にはできるだけ触れない形で、九条を覆そうという

策略です。ここには、右翼主導の保守といえども、日本社会の内部に「戦後日本の価値」である憲法平和主義が定着している現実を認めざるをえない、ということが示されている。2015年の安

保法制反対運動の高揚はそのことを立証し、支配層にも強い衝撃を与えたと思います。だから、安倍の九条加憲案が出てきたのです。

問題は、自民党内では安倍に率いられた右翼が主導権を握り、保守リベラル潮流が無残に凋落してきたことです。いまでは、安倍

に対抗する声も上がらず、引退した長老議員を別とすれば保守リベラルは姿を消してしまっている。

保守リベラルの凋落の理由は何か。一つは、バブル崩壊後の日本が長い経済停滞に陥り、もはや経済成長が望めない時代に入ってきたことです。肝心の経済成長

への疑問や失望が広がるとして、自民党内の保守リベラルが息を吹き返すかといえは、その可能性は小さいと私は思います。

90年代の政界再編(新党ブーム)の結果として、自

民党が公明党と組んで政権に復帰し、これに対抗する最大野党の位置に民主党が座ることになりました。民

主党は、『保守VS改革』の対立構図のなかで「改革」の志向を継承したのです

が、リベラルとして自らを定立しきれませんでした。民主党は鳩山由紀夫らによって結成されたが(96年)、新進党(小沢とそれ以外に分裂したが)グループが合流したことによって、

ベラルは存在根拠を失う。もう一つの、そして最大の理由は東アジアの国際環境の大きな変化です。中国の大国としての台頭と軍事

進出、北朝鮮の核・ミサイル開発の進行です。この変化が反中・反北朝鮮の排外主義的ナショナリズムを掻き立て、対米軍事協力の強化を受け入れる意識を醸成

したことは間違いない。安倍が改憲を正当化する根拠として持ち出すのも、東アジアの政治的・軍事的な緊張の激化ということ

です。しかし、いま朝鮮半島をめぐる状況は、歴史的な転換を遂げようとしています。では、この転換を好機

として、自民党内の保守リベラルが息を吹き返すかといえは、その可能性は小さいと私は思います。

当初のリベラルの旗幟を消してしまつた。民主党は、「政権交代の実現」だけを政治的結集軸とする雑多な政治潮流の寄せ集めでした。これだけが、最後まで一貫した存在根拠でした。

民主党は、反官僚政治と規制緩和という新自由主義的改憲をめざしたのですが、その「改革」は小泉政権に先取りされる結果になつた(道路公団と郵政事業の民営化、派遣労働の規制緩和など)。そこで、当初

は小泉「改革」を下回る「改

## 民主党——リベラル

### として立てなかつた

90年代の政界再編(新党ブーム)の結果として、自民党が公明党と組んで政権に復帰し、これに対抗する最大野党の位置に民主党が座ることになりました。民主党は、『保守VS改革』の対立構図のなかで「改革」の志向を継承したのですが、リベラルとして自らを定立しきれませんでした。民主党は鳩山由紀夫らによって結成されたが(96年)、新進党(小沢とそれ以外に分裂したが)グループが合流したことによって、



リベラルとして立てなかった民主党 (96年結成)

「09年に政権を取った前後の民主党は、格差是正というリベラルな政策と、事業仕分けというリベリアンの政策を同時に追求し

革」、規制緩和を主張して、対抗しようとした。しかし、権力を持っていない側が、そんなことを主張しても支持を得られるはずがない。そこで、小沢独特の政治感覚で「改革」に反対した方が得だと判断して、転換します。競争原理を導入し格差拡大を容認した小泉「改革」は、格差社会を出現させ、折しもリーマン・ショックが大量の派遣切りを招いた。民主党は、格差拡大や貧困を批判し格差是正を主張するリベラル色の強い「国民の生活が第一」を打ち出し、2009年に政権交代を実現しました。

いだとも言える。しかし、新自由主義的傾向は小泉時代の自民党によって先手を打たれてしまい、民主党もまた確固とした方針を持ちえなかった。2009年の選挙の時点では、…新自由主義が非難的となっていた。それゆえ「国民の生活が第一」を掲げる民主党のマニフェストは、大規模な財政支出を伴う『リベラル』寄りの印象を与えることになった(森「迷走する民主主義」ちくま新書、2016年)。

たため、どのような政策原理を持つているのかはつきりしなかった(仲正昌樹「保守・リベラル・リベタリアン」、『中央公論』18年1月号)。

民主党の失敗の大きな理由は、政策の作成や決定のプロセスにおける熟議の不在にありました。中野晃一が指摘しています。野党が指摘しているのが、民主党の政策の提起は思いつきのものが多く、当事者との対話を欠いたトツプダウン式であり、党内や市民内部の討論や合意形成をまったく欠いていた。「コセンサスをつくり、意見を集約するガバナンスはあまりにも稚拙で、そういう気があるのかさえ疑わしかった」という「ガバナンスの失敗が致命的だった」と(中野「安倍政権の権力構造と日本政治の右傾化、そしてリベラルの可能性」、『季刊リベリス・プラン』第78号)。

その代表例は、「コンクリートから人へ」の象徴である八ツ場ダムの建設中止(森「前掲」)。

「憲法平和主義」は、戦後日本では、社会民主主義の潮流(社会党)は、マルクス・レーニン主義の影響を強く受けたために「福祉国家」確立に熱心ではなかった。代わりに、憲法九条を擁護し所とする平和主義を最大のアイデンティティとしてきました。これは、民衆の戦争体験に根ざす反戦平和意識の深さとそれをバネにした60年安保闘争やベトナム反戦運動によって規定されたものでした。

リベラリズムは元々、必ずしも軍事力に頼らない平和主義を主張するものではありません。社会民主主義もヨーロッパでは、必ずしも軍事力を否定する立場を採ってこなかった。ですから、人権を守るために軍事力を使用し他国に介入する「人道的介入」を認めてきました。

憲法学者の長谷部恭男も、次のように主張しています。憲法九条は平和主義を原理として方向づけているが、リベラリズムにもとづく立憲主義は「自衛のための何らかの実力組織を保持する」という選択を許容している、と。なぜなら、立憲主義は「比較不能で多様な価値観の共存」の仕組みであり、「善き生き方」を個々に押しつけてはならない。非武装の絶対平和主義は「善き生き方」の選択の一つになるから、憲法九条を「非武装」の絶対平和主義を定めたものと理解するのは、立憲主義に反するからだ、というわけだ(「憲法と平和を問いなす」ちくま新書、2004年)。

長谷部の議論に見られるように、リベラリズムは軍事力(抑止力)を否定し、軍事力に頼らない平和のあり方をめざすものではない。そうした絶対平和主義は、多くの価値観や政策的選択肢の一つとして選択されるものでしかない、ということになる。

### 憲法平和主義——日本のリベラルの特徴

日本における《保守VSリベラル》の対抗関係は、《保守VS革新》(右翼VS左翼)の対抗関係が失われるなかから出現してきました。しかし、《保守VSリベラル》の対抗は、具体的な歴史的環境の下で展開されます。そのため、日本の特

殊な歴史的条件を反映して《保守VS革新》の対抗関係を受け継ぐことになりました。戦後日本では、社会民主主義の潮流(社会党)は、マルクス・レーニン主義の影響を強く受けたために「福祉国家」確立に熱心

な歴史をとおして存在しなかった高負担・高福祉を主張するリベラルの登場と拡大に今さら期待をかけるよりも、護憲をめぐって積み上げられてきた人々の同意を再評価するほうが、日本では生産的でしょう(「ねじれからみ合う二つの流れ」、『現代思想』前掲)。

日本のリベラルが護憲の立場をとることを積極的に評価する杉田の見解は、説得力があります。ただし、日本のリベラルは、憲法平和主義の立場と同時に、「高負担・高福祉」(公正な増税による社会保障の拡充)の立場を明確にしていく必要があると思います。

### 立憲民主党をどう見るか

立憲民主党は、民主党(民進党)が長らく抱えていた曖昧さを払拭してリベラルとして自己定立しようとしていると言えます。そのことによって、無党派層からの支持獲得に成功し、民進党の前回総選挙の票を上回る1108万票(比例区)を獲得した。リベラルを支持する人びとの受け皿となつたり、市民運動の活動家からの期待感も高い。

#### 座標塾第14期 (2018年3月~11月)

- 第3回 税と社会保障、ベーシック・インカム 7月20日(金)午後6時半
- 第4回 リーマン・ショックから10年 9月14日(金)午後6時半
- 第5回 9条加憲論を批判する 11月16日(金)午後6時半

講師 白川真澄(ビーブルズ・プラン研究所)  
会場 文京ソヒックセンター(予定)  
参加費 1回1000円(会員500円)  
※要申込 研究所テオリア

03-6273-7233



# マルクス生誕200年 — エコロジカルなマルクスのラジカリズムについて

## 渋谷 要 社会思想史研究

### はじめに

私は「テオリア」の購読者であるが、それ以外の関りをもっているわけではない。だが私は、白川真澄さんが「とりあえず、反資本主義の重要性という点で左翼の再生をめざす。しかし、再生されるべき左翼は、グリーン（緑）によって自己脱皮した左翼でなければ魅力も意味もない」と、『左翼は再生できるか』（研究所

テオリア、2016年）という自身の刊行物で述べておられる方向性に賛成しており、その点からも、「マルクス生誕200年」というこの原稿依頼を引き受けた次第である。

ここでは、その「緑」（エコロジズム）の線で、生誕200年と応接してゆくとする。

資本主義以前の社会は、経済的強制としての収奪によって支配階級が人民を抑制する社会だったことに對し、マルクスは、資本主義社会の支配階級ブルジョアジーが、労働者階級が生産した剰余価値を単に収奪ではなく、搾取という形で取得する特殊な様式を解明した。それが、例えば「資本論」第三巻の「三位一体的定式」として明らかにされているものである。

資本主義社会では商品（w）は、「労働生産過程」において「不変資本（生産手段）c＋可変資本（労働力）v＋剰余価値m（このv+mは生きた労働vが生産した価値）」として「商品価値」を構成する。

### 搾取の解明を基礎とした 資本主義批判

カール・マルクスは1818年にドイツ・プロイセン王国に生まれ、1883年イギリスのロンドンで他

界した。この期間は、まさにヨーロッパ階級闘争が、1848年における、フランスとドイツなどの革命、1871年パリ・コミューン、1881年ナロードニキによるロシア皇帝（アレクサンドル二世）打倒の闘いを頂点に、高揚

ければ、「資本の労働に対する処分権」として組織されるものにほかならない。ここに「労働力の商品化」とは、「賃金奴隷制」とマルクスが喝破した根拠がある。

だが、この商品の価値構成は、「生産価格」＝費用価格k（c+v）＋利潤（市場競争の結果としての平均利潤p）に転形する。これにより、労働力vは剰余価値（利潤部分）を生産しない単なる費用価格の一部と観念され、剰余価値の搾取は隠蔽される。

今日においても、「自由・平等」な社会という幻想性の下、富裕層・ブルジョアジーの労働者階級に対する搾取、収奪は、新自由主義の下で激化しており、非正規雇用などの貧富格差を前提とした資本の専制が広がっている。批判の武器としての「マルクス」を復活させる必要があるだろう。

### マルクスによる 廃棄物問題の分析

同時にマルクスの資本主義批判は、彼の自然と、その一部たる人間に対する根源的な認識としての自然主義人間主義にうらうらさ

れたものであった。マルクスは、「経済学・哲学草稿」では、「自然は人間の非有機的体である」とのべているが、それは換言すれば、

人間は自然生態系のなかで、自ら、一つの生態系を創造しつつ存在しているということである。このことを、マルクスは次のようにも展開している。

「再利用の条件は、だいた次のようなものである」として、大規模な作業で使用できるような、排泄物が大量であること、また、「そのままの形では従来は利用できなかった材料を機械の改良によって新たな生産に役立つような姿に変えること」とまた、「化学の進歩によって」廃物の有用な性質を発見することが必要だと論じている。

「資本主義的生産様式の発達につれて生産と消費との排泄物の利用範囲が拡張される。われわれが生産の排泄物というのは、工業や農業で出る廃物のことであり、消費の排泄物というのは、一部は人間の自然的物質代謝から出てくる排泄物のことであり、一部は消費対象が消費されたあとに残っているその形態のことである。生産の排泄物は……再び原料として鉄の生産にはいつてゆく鉄屑などである。消費の排泄物は……農業にとって最も重要である」。そしてマルクスは次のように批評する。

だが、「その使用に関しては、資本主義経済では莫大な浪費が行われる。たとえば、ロンドンでは、4、500、000人の糞尿を処理するのに資本主義経済は、巨額の費用をかけてテムズ河を汚すためにそれを使うよりもましなことはできないのである」と。

そこからマルクスは、排泄物の「再利用」を次のように展開する。

マルクスはここで、「たえば、以前はほとんど役に立たなかったコaltarをアニリン染料すなわちアカネ染料（アリザリン）にする技術が開発されていることなどに着目している。マルクスがここで出しているアリザリンの事例であるが、19世紀、これが発明されるまでは衣服を染色する染料は、自然物から抽出されていた。だから染料はかなりの高価なものだった。これに対し、石炭から石灰ガスを生産するときの廃棄物であるコaltarを原料として染料を造ったのがウイリアム・パーキンだった。これにより染料を安価かつ大量に生産することができるようになり、大きな需要を創出した。様々の技術開発が媒介し19世紀末から第一次大戦（1914年）にかけて、欧州は「ペルエポック」という経済的繁栄の時期を画したが、それは貧富格差を拡大する。さらに第一次大戦は長期化し膨大な戦費が短期間で消

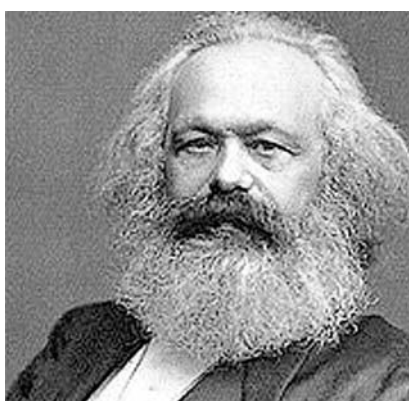
費される国家総力戦となった。結果、富裕層の資産も縮小し、労働者階級には戦争動員などでの死がまつていった。そうした体制的危機の中で、ロシア革命・ドイツ革命が勃発することになった。

だがさらにマルクスは、次のようにも述べている。「このような生産の排泄物の再利用によるその節約とは区別しなければならぬのは、廃物を出すことの節約、すなわち生産の排泄物を最小限度に減らすことであり、また、生産にはいつてくるすべての原料や補助材料を最大限度まで直接に利用することである」と問題を喚起する。

マルクスは、ここで、「廃物の節約」の問題は、生産過程で生まれる廃物が一番重要な問題であり、機械・道具・原料の良否がその節約の限界を左右する。また、それは、農業においても同じだと展開している。こうしたマルクスの論点は、「エントロピー（廃熱・廃物）の増大」という問題にほかのものでもある。

マルクスは、こうした資本主義近代にかり、プロレタリアートの自己解放が実現して行く世界を、例えば「プロレタリアートの革命的独裁」と主張した。だが、その革命の形は、「ドイツ宣言・ロシア語第二版序文」でのマルクスの思考を

（4面へ続く）



マルクスは、こうした資本主義近代にかり、プロレタリアートの自己解放が実現して行く世界を、例えば「プロレタリアートの革命的独裁」と主張した。だが、その革命の形は、「ドイツ宣言・ロシア語第二版序文」でのマルクスの思考を

マルクスは、こうした資本主義近代にかり、プロレタリアートの自己解放が実現して行く世界を、例えば「プロレタリアートの革命的独裁」と主張した。だが、その革命の形は、「ドイツ宣言・ロシア語第二版序文」でのマルクスの思考を

マルクスは、こうした資本主義近代にかり、プロレタリアートの自己解放が実現して行く世界を、例えば「プロレタリアートの革命的独裁」と主張した。だが、その革命の形は、「ドイツ宣言・ロシア語第二版序文」でのマルクスの思考を

マルクスは、こうした資本主義近代にかり、プロレタリアートの自己解放が実現して行く世界を、例えば「プロレタリアートの革命的独裁」と主張した。だが、その革命の形は、「ドイツ宣言・ロシア語第二版序文」でのマルクスの思考を

（4面へ続く）

# 「ソウル市民民主主義」の

## 政策と実行例を見る

『ソウルの市民民主主義』（白石孝編著）

原 千代

なにかすごいということも本書に書かれていることは、理想論でも、絵に描いた七子の図画集でもなく、飛行機で2時間着いてしまふ距離に位置する、すぐお隣のソウル市で実際に実行され、大いなる成果を上げ、次は韓国全土に広めよう！と推し進められている政策と事例が詳細に記されていることである。

本書を読んで、「日本もこうなったらいいのに」と思うひとたちが、この実行例をもとに取り組めば、日本も確実によりよい社会にすることができると「あんなに」だといつても過言ではない。

日本と韓国はお隣同士。こんな近くに位置しながら、わたしは知らないことが多かった。たとえば、日本と韓国はとも似ている。儒教的背景を持つ文化であり、戦後アメリカの影響をよく受けているアジアの国であり、日本と同じく米占領軍のもとで成立した憲法も似ている。

最近の社会情勢もそっくりである。自己責任が声高に叫ばれ、少子高齢化し、共同体は崩壊、非正規雇用が爆発的に増え、貧困と格差が広がる社会に市民はあえいでいる、と教え上げられてきた。

わたしはまったくもって信じられないことだった。思わず質問タイムでどうして、韓国の政治家は初心を忘れずに、偉くなつてもちゃんと市民のために仕事をしてくださるか？と尋ねてしまったほどだ。

### ソウルスタディツアー

横道にそれるが、昨年、訪韓する前にわたしは期待していた韓国についての知識はというと、知っている韓国語の「アニョハセヨ」と「カムサハムニダ」のみ。

そんなわたしは2017年10月29日からの宇都宮健児弁護士セミナー、通称「うつげんせみ」生の修学旅行として、ソウルスタディツアーに参加するにあたり、事前にレクチャーをしてくれたのが『ソウルの市民民主主義』の編著者、白石孝さんだった。

白石さんの講義で、毎週100万人規模のキャンドルデモがソウル市のメインストリートにある光化門広場で行われ、結果、朴槿恵（パク・クネ）氏は大統領を罷免され、文在寅（ムン・ジェイン）大統領が誕生した、ということを知った。

文氏は当時の野党の中で

りである。自己責任が声高に叫ばれ、少子高齢化し、共同体は崩壊、非正規雇用が爆発的に増え、貧困と格差が広がる社会に市民はあえいでいる、と教え上げられてきた。

とびとは利権に左右されず、市民民主主義・社会革新に邁進し続けていると、驚きと喜びの表情で語ってくれた。

わたしはまったくもって信じられないことだった。思わず質問タイムでどうして、韓国の政治家は初心を忘れずに、偉くなつてもちゃんと市民のために仕事をしてくださるか？と尋ねてしまったほどだ。

この講義から「どうやらソウルや韓国では市民のチカラで政治がまともになっているらしい」ということと、韓国に対してわたしはまったくの無知ということがよくわかった。

わたしはまったくもって信じられないことだった。思わず質問タイムでどうして、韓国の政治家は初心を忘れずに、偉くなつてもちゃんと市民のために仕事をしてくださるか？と尋ねてしまったほどだ。

### 給食無償化を達成

本書をざっくり紹介すると、2011年10月26日、ソウルで朴市長が誕生した。彼の掲げたマニフェストは3大公約、5大市政目標、15大分野、327事業で構成されており、3大公約の中身は、「1. 小・中学校の給食の無償化、2. ソウル市立大学の授業料半減、3. 公共部門で率先して非正規労働者を正規職化

5大市政目標は「1. 堂々と享受する福祉 2. 共に暮らす経済、3. 共に創造する文化 4. 安全で持続可能な都市 5. 市民が主体となる市政」。この5大市政目標が15分野に分けられ、327の個別事業として構成されている。

韓国では前の市長の辞任による新市長は前市長の残りの任期を1期とする制度となつているため、朴市長の任期は2年8ヶ月しかなかった。にもかかわらず、公約履行率は一番達成率の低いもので73.3パーセント（4. 安全で持続可能な都市の9、都市再生、100パーセント達成済が2つもある（3、共に創造する文化の8、教育と、5、市民が主体となる市政の14、市民参加行政）というたいへん履行率の高い結果を出している。

これらの公約に基づくソウル市政の実践状況などについて、朴市長みずから「私の政治哲学」（第6章）を語り、「労働政策」（第4章）について上林陽治氏が解説し、「女性政策」（第8章）という大内裕和氏と白石さんの対談があり、さまざまな形式で、多方面から紹介している。

### 社会的企業の育成

たとえば、労働政策では、ソウル市の公共職の非正規雇用をどんどん正規職化して、雇用の安定をはかつて、女性の政策では女性が家事も育児も労働も安心して働けるように「仕事・家族両立支援センター」を設置し、セクハラ・パワハラ防止ホットラインやジェンダー教育、良質なベビーシッターの新規養成などきめ細やかな当事者視点の対策がてんこ盛り。格差と貧困の解消として、「社会的企業育成法」を活用して、社会的企業を育てている。

ソウル革新パークの中で運営しているカフェも、ソウル市庁舎の地下にあるカフェも「社会的企業」である、と紹介された。使用している食材などはフェアトレードやオーガニックを中心としたものだそう。わたしは現地で驚いたことの一つがこの「社会的

企業」である。なんと韓国には社会的企業育成法という法律があり、企業でなく協同組合や数人のショップでも審査をクリアすれば認定され支援を受け営業できる。そのかわり、還元可能な利益の3分の2を社会に還元することが義務付けられているという。

社会的企業という概念を具体的な生活の場に導入する方法として韓国は法律化していたのである、しかも、公共施設では主として社会的企業が採用されているようだ（カフェは木を基調としたおしゃれで居心地のよいものだった）。

### 行政は地域活動を後押しする役目

一貫して、「人権の尊重」「市民参加型の民主主義」「社会的弱者（韓国では「脆弱層」と称する）への人間的なケア」であることがわかると思う。

では、これらの人権重視の政策は朴元淳氏というヒーローが市長となって上意下達で成し遂げられているのか、というと、朴氏は尊敬に値するすぐれた人格者とお見受けするが、決して彼の個人的資質によってソウル革新が進んでいる

わけではない、と思う。というのも、禿山（トクサン）4洞住民センターを訪問したときのことだ。こゝは、「ほんとうに困っている」とは役所の窓口まで来られない」という現実を直視し、チャットンという「出前型福祉」を出かけていく福祉をほじめた地である。ここで聞いたお話を印象的だったのは、「現代社会は複雑で多様化しているのだから、それぞれの地域で解決したい課題は異なる。上からこ

ソウル革新が進んでいる



ソウルスタディツアー一行



スタディツアーで



ソウルでもっとも住民のみなならず区役所のひとびとも敬愛されている...

韓国では1960年代生まれで、1980年代の民主化運動時代に学生で、90年代に30代だった「386」世代と呼ばれる市民活動家たちが、現在の政治の場で活躍し、ソウル革新に象徴されるような民主的な社会を作り上げている...

この「ソウルの市民民主主義」は、政権中枢に登用されても、しばしば集まっては韓国をどのよう国にするかについて食事をしながら語り合い、「グラウンド・ビジョン」を共有しあっているという。

『ソウルの市民民主主義 日本の政治を変えるために』白石孝編著 / コモンス / 1600円+税

ト未満だったものを60パーセント以上にも引き上げたぞうだ。なぜそんなことが可能なのか、というわたしたちの問いに、区長さんは「家賃を払えなくてごめんない」と書き置きしてなげなしの小銭を添えて自殺した母子のエピソードを語ってくれた。韓国でも日本と同じように生活保護のような国からの支援を受けることは恥とされている...

間も「市民」という感覚を失っておらず、少なくともわたしの見てきたソウルでは、住民VS行政という構図はなかった。

グローバルで持続可能な社会的発展を目指す宣言。日本からは横浜市と京都府が参加)

本書の影響を受け「希望連帯(仮)」がスタートした。国会議員から一般市民まで広く連帯して希望に満ちた社会をつくらうというものだ。6月6日には院内学習会が開催される。

飛行制限時間緩和を許さないー成田空港「第3滑走路」計画を撤回せよ！反原発ー再稼働やめろー沖縄・辺野古の新基地建設反対ーPPP反対ー三里塚7・8東峰現地行動

日時：7月8日(日)午後1時

場所：旧東峰共同出荷場跡(千葉県成田市東峰65-1) / 開拓道路に向けてデモ / デモ終了後現地調査 / 会場への行き方

京成東成田駅地上 12時30分集合 迎えの車待機 / 10分集合 迎えの車待機 / 11時34分 京成上野特急 ↓ 11時41分 成田 ↓ 11時52分 京成成田 ↓ 乗り換え 京成本線 (普通)「芝山千代田行き」 ↓ 11時57分 東成田

主催：三里塚空港に反対する連絡会

連絡先：千葉県山武郡芝山町香山新田90-5 / 電話：FAX 0479-78-8101

### 三里塚物産火災 お見舞いカンパのお願い

三里塚に思いを寄せるすべての皆さまへ。

4月4日、千葉県成田市東峰地区にある榑ヶ守男さん宅、隣接する三里塚物産の冷蔵倉庫が火災に見舞われ...

焼損したらっきょう漬けの樽

私たちが被災された皆さまにお見舞いの気持ちをあらわすとともに、三里塚物産のらっきょう工場の再建に不可欠な建屋、冷蔵倉庫の購入などの一助になればと思い、皆さまにカンパの呼びかけをさせていただきます。

「送金方法」 郵便振替 0018005 507296 研究所テオリア

「連絡先」 東京都千代田区内神田1-17-12 勝文社第二ビル101 研究所テオリア 03-6273-7233 Mail: email@theoria.info



焼損したらっきょう漬けの樽

安倍政権打倒！

環境・生活破壊の第3滑走路建設・空港機能強化反対！

1月14日＝東峰

区で行ってきた。この説明会の中で、移転対象となる住民、新たに騒音地域となる住民、騒音がさらに増大する騒音地域住民からは厳しい批判の声が上がり、断固反対が次々と表明された。

飛行制限時間緩和を許さないー成田空港「第3滑走路」計画を撤回せよ！反原発ー再稼働やめろー沖縄・辺野古の新基地建設反対ーPPP反対ー三里塚7・8東峰現地行動

日時：7月8日(日)午後1時

場所：旧東峰共同出荷場跡(千葉県成田市東峰65-1) / 開拓道路に向けてデモ / デモ終了後現地調査 / 会場への行き方

京成東成田駅地上 12時30分集合 迎えの車待機 / 10分集合 迎えの車待機 / 11時34分 京成上野特急 ↓ 11時41分 成田 ↓ 11時52分 京成成田 ↓ 乗り換え 京成本線 (普通)「芝山千代田行き」 ↓ 11時57分 東成田

主催：三里塚空港に反対する連絡会

連絡先：千葉県山武郡芝山町香山新田90-5 / 電話：FAX 0479-78-8101

焼損したらっきょう漬けの樽

私たちが被災された皆さまにお見舞いの気持ちをあらわすとともに、三里塚物産のらっきょう工場の再建に不可欠な建屋、冷蔵倉庫の購入などの一助になればと思い、皆さまにカンパの呼びかけをさせていただきます。

「送金方法」 郵便振替 0018005 507296 研究所テオリア

「連絡先」 東京都千代田区内神田1-17-12 勝文社第二ビル101 研究所テオリア 03-6273-7233 Mail: email@theoria.info

焼損したらっきょう漬けの樽

安倍政権の改憲・戦争政策に対決する闘いと結合し、第3滑走路建設に反対しよう。7・8三里塚現地に結果し、共に闘おう！

# 過労死促進の「高プロ」 =残業代ゼロ制度はいらない!



5月25日、安倍政権は衆院厚生労働委員会で「働き方改革」＝働かせ放題法案を強行採決。今国会で強行成立させようとしている(5月26日現在)。

5月25日、安倍政権は衆院厚生労働委員会で「働き方改革」＝働かせ放題法案を強行採決。今国会で強行成立させようとしている(5月26日現在)。

## 明治150年

### 日本による沖縄差別を問う

4月28日、「明治150年」日本による沖縄差別を問う」が行われた。主催は、天皇「代替わり」と安保・沖縄を考える4・28-29連続行動実行委員会。106人が参加した。



4月29日、反「昭和の日」デモが行われた。参加者は100人。銀座をデモし、天皇代替わり「昭和の日」元号反対を訴えた。

## 沖縄「日本復帰」46年を問う

### 稲嶺前名護市長が講演



5月13日、沖縄「日本復帰」46年を問う。今夏、辺野古への土砂投入を許さない!5・13集会が東京・大塚で行われた。主催は沖縄一坪反戦地主会関東ブロック。

## 安倍9条改憲阻止へ 5・3憲法集会2018

憲法施行71年の5月3日、「9条改憲NO!平和といのちと人権をー5・3憲法集会2018」が有明防災公園で開かれ、6万人(主催者発表)が参加した。

5月27日の辺野古座り込みに参加して、ぼろぼろと抜かされた。パレスチナと沖縄の状況は同じ。若いイスラエル兵が機動隊だ。自衛の名で正当化される暴力が人間の尊厳を握り潰し、命が奪われようとした。写真。

テオリア論集7  
安倍一強政治の「終焉」  
民主主義と社会保障のこれから  
私たちの流儀はいま(ポスト・グローバル時代の民主主義)  
田原 牧  
貧困の現場から社会を変える  
稲葉 剛  
五輪災害と祝賀資本主義  
なぜ反東京オリンピックなのか  
鶴飼 哲  
ロシア革命の「意味」と現代世界  
森田成也  
2018年5月発行  
定価 1000円 発行 研究所テオリア